
帰宅部万歳

☆宇宙人保護団体☆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰宅部万歳

【Nコード】

N6094J

【作者名】

☆宇宙人保護団体☆

【あらすじ】

帰宅部は帰宅するだけ！と、思ってたませんか？それは大きな間違い。

帰宅途中に寄り道したり、新たな出会い、発見をする・・・それが帰宅部なのです！！

まさに帰宅部万歳！！な小説です。

（ハオハ＊）ぜひ暇があったら読んでください☆って感じの小説です。

二話 バレンタインですね☆龍門司部長、チョコレートいくつ貰いました？（前

注意..間違えて、第二話を一話の上に投稿してしまいました。

毎度、小説の題名に合っていない内容です。

でも、次回からは題名どおりの話を作りたいと思います（^v^*）

二話 バレンタインですね☆龍門司部長、チョコレートいくつ貰いました？

ええっと・・・あつ、日本中の美女の方々、龍門司シンです。

まったく、後輩からはナルシストだと言われ、女子からは陰でキモイと言われ・・・。

なんで、なんでだあ！！！！

っと、絶望している隊長に代わり、私、陽室が帰宅部の説明をします。

あらすじにもあったように、帰宅途中には素敵なものがある、見つけられるといったメリットがあります。

デメリットは、ナルシストな部長がいることです。

虎玉でーすっ！

部屋ぶしつに入ると、なにやら落ち込んでいる部長が居て・・・

虎) 「ぶっちょ(部長)さーん！！なに暗くなってるんですか。」

龍) 「・・・・・・・・・・。」

陽) 「虎玉、もう来てたんだ。」

虎) 「ヒムヒム、聴いてくれよ。部長がなんかさ・・・」

陽) 「隊長、どうかなさいましたか？」

龍) 「・・・・・・・・・・はあ。」

虎・陽) 「・・・・・・・・・・。」

虎・陽・桜 「・・・そうですか。（心配して損したぜ）」

バレンタイン当日。

女の子はドキドキ。男の子は期待して待っています。

虎 「部長、チョコ貰ったかな？」

陽 「俺の予想では、0個。」

桜 「俺も0に賭けまゝす。」

ガチャッ↑ドアが開いた

虎 「部長。収穫ありました？」

龍 「・・・全然ダメだ。」

桜 「残念でしたね。」

陽 「・・・。」

カアカアカアカ・・・

虎 「部長、帰宅部開始ですよ。」

龍 「・・・ああ。」

カアカア・・・

桜)「今日は何も起こらないですね。」

陽)「普段なら、変人によく会うのに……。」

虎)「ヒムヒム、それは宇宙人だよ。」

陽)「そうだった。」

桜)「でも、それってコスプレだったっしょ。」

龍)「じゃっ、ここで……。」

虎・陽・桜)「じゃ〜ね〜。」

虎玉たちと別れた俺は、道端である物を見つけた。

龍)「花飾りだ。」

かばんに入れようと中をのぞくと……
そこには三つのチョコがあった。

龍)「あいつら……。」

そのチョコたちには、「ナルシスト部長最高!」と、書かれてあった。

龍）「鞭打ち100回だ。」

翌日、部長に怒られた俺たちが部室^{ぶしつ}で見つけたのは、綺麗な花飾りでした。

陽）「・・・綺麗だ。」

虎）「うん。」

桜）「部長さん、これ自分で作ったんですか？」

龍）「まさか。拾ったんだよ。」

そのころ、花飾りの落とし主が彼らのことを、こっそりと覗いていた。

？）「シカタガナイ。・・・セツカク、チキュウノオミヤゲニシヨウトオモッタノニ。コレジャ、ナカマタチニドウイエバイインダロウ・・・。」

チャイロイモノガアッタ。

？）「チョコダ。・・・コレヲチキュウノオミヤゲニシヨウ。」

花飾りの落とし主は、宇宙へと帰っていきました。

そのころ・・・

龍 「あれ？チョコが一つない。」

虎 「落としたの？」

龍 「そうかも。」

虎 「まっ、いいじゃん。一つくらい。」

そのころ、宇宙では・・・

？ 「コレハウマイナ〜。ナンテイウタベモノナノ？」

？ 「チョコダヨ。チキュウデミツケタンダ。」

？ 「チキュウニコンナウマイモンガアルノカイ？」

？ 「アルトモ。コンドイッショニ、チキュウニイコウ。」

？ 「メイアンダ。ソウシヨウ。」

こうして、彼らは地球に向かって出発した。

二話 バレンタインですね☆龍門司部長、チョコレートいくつ貰いました？（後

？）のところの会話文、理解できましたでしょうか。

カタカナばかりですみません（VOV）

次回をお楽しみに！！

一話　まずは人物紹介だよ☆（前書き）

日本語におかしなところがあるかもしれません。
日本人なのに国語力ないんです☆
にぱあ☆

一話　まずは人物紹介だよ☆

ちよつとそのあなた!!

部活入ってないなら、帰宅部においで!!

むっちゃ楽しいんだから★

俺の名前は虎玉^{こだま}ジュンです。

虎　「ヒムヒム、部長は?」

陽　「隊長?　そういば呼び出しで・・・」

虎　「そっか。部長、また先生に怒られたんだ。」

陽　「・・・そういうことだ。」

ここは帰宅部です。

でも、普通の帰宅部とは違います。

こいつは、ヒムヒム。

陽室^{ひむろ}ユウジ。

俺の大事な親友です。

虎　「ヒムヒム、!このまま待っててもしかたねえから、二人でゲームしようぜ!!」

陽　「二人・・・で?」

虎 「そうそう。うーん・・・何がいいかな？」

陽 「・・・・・・・・・・。」

カアカア・・・

陽 「鳥が鳴いているな。もう黄昏時か・・・」

虎 「ヒムヒム？」

陽 「なあ、虎玉・・・黄昏時は寂しいと思わんか。」

虎 「・・・どうだろう。寂しいっちゃあ寂しいな。」

陽 「黄昏時が寂しいと思えるのは、あの世とこの世がつながる時だからなんだと。」

虎 「えっ！！あの世!？」

陽 「この世に未練をもった者たちがあの世から帰って来るんだとさ。」

虎 「えっ・・・（怖）」

陽 「だから、黄昏時はこんなにも寂しくて悲しいんだ・・・。」

虎 「ヒムヒムって、ロマンチストだな。」

陽 「いや、小説に書いてあったことをそのまま言ったただけだ。」

虎 「ドテッ!! (転倒)」

陽 「・・・帰るか。」

虎 「部長はどーすんの？」

陽 「もう五時だ。隊長はとっくに帰っていっただろ。」

虎 「部長、ひでえ。(こっちは待ってたのに!)」

陽 「また明日。」

虎 「おう。」

カアカア・・・

虎 「寂しい。」

ドッカーン!! ↑ドア突き破った音

虎 「わわわっ! なっ、なんだよ!!」

龍 「待たせたな・・・。」

虎 「ぶっちょ (部長) さん!」

龍 「そう。この俺、最強にして最強のイケメン部長、龍門司シンだ！」

虎 「あはははっ！！イケメンは余計ですよ、部長さん！！」

龍 「あんっ？」

虎 「何でもないです。すみません・・・」

龍 「それはともかく、他の部員は？」

虎 「ヒムヒムは先に帰っちゃいました。あと、桜マンならイタリアへ今日中にピザ食いに行くって聞きました。ピザならスーパードも売ってるよって言ったら、もう居なくなっていました。」

龍 「うう・・・どうもこいつも！」

虎 「で、これからどうしますか？」

龍 「今日は部活なし。」

虎 「そうですか。じゃあ・・・」

龍 「待てい！！」

虎 「ななな、なんですか！？」

龍 「部活は無しと言ったが・・・」

虎 「！？」

龍 「てめえ、さっき言ったこと・・・もう一度リピートしてもらおうかあ。」

虎 「えっとお・・・なに言いましたっけえ。」

龍 「この俺がイケメンでないと・・・」

虎 「わあああん！！すみませんって謝ったじゃないですかあ！！」

龍 「許さん！！げんこつ一発おみまいしてやる！！」

虎 「あんまりだああ！！」

陽 「鳥は汚くて、不吉だって？誰が決めたんだい、そんなこと。」

カアカアカアカアカア・・・

陽 「今日は宴が聞こえるな。」

my name is raven ♪ (わたしは不吉な鳥)
one raven, two raven, three raven ♪ (一、二、三羽)

everyone's gaze was focused on him ♪ (皆の視線が彼に集まった)

appetizing ♪ appetizing ♪ (おいしそう、おい)

しそう)

great dinner♪(ごちそうだ)

虎) 「今日は、烏がいちだんと騒がしいなあ。」

龍) 「烏?言われてみれば……。ゴミでもあさってんじゃねえの?」

虎) 「うん。」

一話 まずは人物紹介だよ☆（後書き）

この小説つまんねーって思う人、多いと思います。
でも、もしかしたら面白いって思ってくれた人もいるかもしれませ
ん。

その方々には感謝します（＊＾Ｏ＾＊）

☆i love 机 ☆↑変なこと言ってごめんなさーい☆
でも、友に言ったらウケてました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6094j/>

帰宅部万歳

2010年10月28日04時32分発行